

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成24年10月31日現在

## 今月の重点活動

### ■ブロッコリー 栽培面積拡大

天候不順により一部作業の遅れが見られたが、10/3に定植が完了した。セル苗供給と移植機利用の増加により栽培面積の拡大に繋がっている。

- ・ J A ぎふブロッコリー生産連絡協議会 16.0ha (前年 12.5ha)  
(うち、移植機利用面積 11.2ha)
- ・ 丸北出荷組合ブロッコリー部会(岐阜市) 5.5ha (前年 5.0ha)  
(うち、移植機利用面積 2.2ha (前年 0.6ha))

施肥改善、品種変更、適期管理の実施もあり、昨年問題となった黒腐病の発生は減少している。早生品種では出蕾が始まり、10月末からの出荷見込みである。

10/4 岐阜市北西部ブロッコリー塾、10/11 西郷ブロッコリー部会、10/30 竹鼻ブロッコリー栽培グループにおいて中間栽培研修会が開催され、農業普及課では、今後の管理について指導した。



【移植機による定植の様子】



【研修会の様子】

## 活力ある新産地づくり

### ■アスパラガス 養分貯蔵に向けたアスパラガス栽培講習会を開催！

10/10に、おんさい広場鷺山店で本年産の反省と養分貯蔵に向けた栽培管理について研修会を行った(参加者8名)。

市場から、アスパラガスの全国生産動向や今後の販売のあり方についてアドバイスを受けた後、農業普及課よりH24年産アスパラガスの問題となった①高温障害問題、②水管理不足についての改善案、春芽に向けた10月(収穫後から冬期)の管理について説明した。



【研修会の様子】

## 売れる農畜産物づくり

### ■かき 「早秋」「太秋」出荷始まる！

管内の各産地から「早秋」「太秋」の出荷が10/1から始まった。いずれの品種も今年度は着果も良好で、「早秋」は10月下旬までに前年比の2~3倍の出荷量が期待されており、厳しい選果がされているものの単価安(2,000円/3.5kg前後)の傾向となっている。「太秋」も同様な状況。

また、引き続き12日頃から「早生富有」の出荷も例年より遅れて始まった。

農業普及課では市場評価を高めるため、農協、振興会と連携して徹底した選果指導を行っている。



【糸貫選果場の早秋出荷受けの様子】

## ■水 稲 **ぎふクリーン農業登録更新支援**

今年度登録更新を迎える該当者を巡回し、手続きの確認を行った。更新研修会への参加啓発や残留農薬検査をする場合の助成事業の活用推進を実施した。農業普及課としては、今年度に登録更新予定の7件について支援していく。

## ■品目等 **「岐阜えだまめ」出荷後半戦！**

- ・岐阜えだまめの出荷も残すところ約1ヶ月となり、今年度導入された後期作型の「サヤムスメ」を中心に出荷が行われている。後半の出荷量は昨年並みの見込み。
- ・9月下旬までの出荷量986.5t(対前年比106%)、単価647円/kg(対前年比84.5%)。
- ・9/27には、第4回えだまめ塾を開催し、関係機関協力の下、新規栽培者の確保育成に取り組んでいる。



【えだまめ塾の様子】

## 戦略的な流通・販売

## ■品目等 **ぎふいちご全国へ進出！**

・JAぎふ岐阜市いちご部会と長良園では、ぎふいちごで作った菓子「信長の赤」と、ぎふいちごを全国に向けてPRするため10月3～5日に東京ビックサイトで開催した食品開発展に参加した。食品開発展では、「信長の赤」の他にも、濃姫パウダー、いちごを使った菓子など関連商品を数多く出展した。今回の展示会では、生産者やJAぎふ職員も出席したため、いちご産地のPRが出来ただけでなく、来場者(業者)のニーズを直接聞くことが出来た。



【食品開発展の様子】

## 県民みんなで育む農業・農村

## ■羽島体験プロジェクト **消費者の収穫体験を実施**

千代菊(株)とアイガモ稲作研究会は「ぎふ一村一企業パートナーシップ」に認定されている。10月7日には約100名の親子が参加して稲の手刈り体験を実施した。農業普及課では、手刈りの方法、注意点等について説明を行い、怪我もなく安全に収穫体験が行われた。



【稲刈り体験する親子】

## ■小学校 **農業体験学習指導**

管内各地域の小学校4校で稲刈り体験学習が順次実施されている。農業普及課が農家とともに出席し、水稻の状況や鎌の使い方等について説明を行った。関係者と共に怪我の無いよう注意し、安全に楽しく体験学習が行われた。真桑小学校では、刈り取った稲をはさかけし、今後、脱穀、もみすり作業の体験学習が行われる予定。